

キンダーブック じゃにあ 1月号

表紙の
絵から

ちゅうくんが凧揚げをしています。ほかにどんなお正月の遊びを知っているか話してみましょう。空は晴れていますが、ちゅうくんの息が白くなって、外は寒そうです。ちゅうくんの服に注目し、寒い日に外に出かけるときの服装について話してもよいですね。



おんせん ぽかぽか



ねらい サルたちのようすを見て、温泉の気持ちよさを想像しましょう。

つかい方のポイント 「温泉に入ったことはある?」と尋ね、「お湯に色はついてた?」「どんなにおいしかったかな?」と家庭の風呂との違いに気づけるように問いかけましょう。温泉のお湯の温かさや大勢で入る楽しさを想像できるとよいですね。

「かして!」「いいよ!」



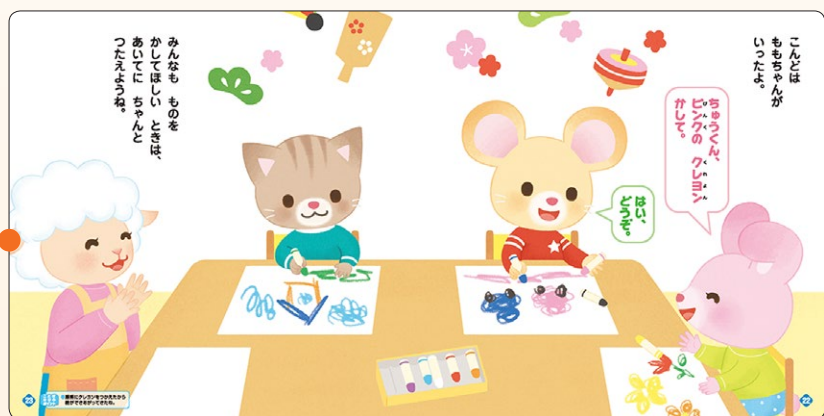
ねらい ことばでやりとりしながら物の貸し借りをし、友だちと気持ちよく遊びましょう。

「ちゅうくん、青色のクレヨンをつかいたいみたいだね」「青色のクレヨンはだれが持っているかな?」と子どもたちが気づけるように話しかけてみましょう。「お友だちがつかっている物をつかいたときはどうしたらいいかな?」と問いかけ、子どもが自分で考えるきっかけになるようにしましょう。



「ちゅうくん、じゃおくんに『貸して』って言えたね!」など、ことばでのやりとりについて具体的に伝え、「みんなも『貸して』って言えるかな?」と問いかけてみましょう。じゃおくんが「いいよ」と笑顔で答えたことにも注目しましょう。

「今度はちゅうくんがももちゃんにクレヨンを貸すことができたね」とちゅうくんが気持ちよくゆずることができた姿に注目しましょう。なかよくゆずり合うことの心地よさを感ぜられるとよいですね。



ぶくぶく おもち



ねらい お餅がふくらんで、お雑煮になるまでを楽しみながら読みましょう。

つかい方のポイント 歌の部分はリズムカルにうたうように読むと楽しいですね。お餅がオーブントースターや鍋の中で変化するようすを想像しましょう。「おうちのお雑煮には何が入っていたかな?」と話題を広げてもよいでしょう。

「キンダーブックじゃにあ」を 保育にご活用ください!

絵本をつかった 指導計画の文例

コーナー

子どもが経験すること

保育者の配慮

5領域



- 自分の思いをことばで相手に伝える。
- 友だちと気持ちよく物の貸し借りをを行う。

- 子どものようすを見ながら、子どもが自分の思いをことばで伝え合えるように支援する。
- 保育者が必要に応じて子どもの思いを代弁し、相手の気持ちを想像したり、思いに気づいたりできるように支援する。

言葉
人間関係



- お正月に食べる料理を知る。
- お正月遊びについて知る。

- 誌面を活用して、お正月の料理にはどんな物があるか尋ね、考えられるようにする。
- お正月の料理の由来について、絵本や写真などをつかいつながりやすく伝える。
- お正月に家でどんな遊びをしたのか聞き、お正月遊びにつながるように話を進める。
- 羽子板やこま、福笑いなどを用意し、実際にお正月遊びを楽しめる環境を準備する。

環境
健康
言葉
人間関係